

changer について

阪上 るり子

0. はじめに

フランス語の他動詞のなかには、事行の対象への働きかけの意味については類似しているにもかかわらず、その対象を示すのに、場合により直接補語の形だけでなく間接補語の形もとるものがある。changer もそのような動詞の一つである。この動詞については、その多義性の記述という観点からの研究が多くある。しかし、changer が de を伴う間接目的補語を従えるときは事行が主語と目的補語との両方に影響するという記述はあるものの、どのような影響であるのかなどまだ充分検討されていない部分もあるように思われる。本稿では、そのような面について発話例に即して検討していく。

1. 語義の記述

Trésor de la langue française をはじめ代表的な辞書では、changer の統辞的特徴(v. intr., v. trans. direct., v. trans. indirect, v. pron., etc.)を項目にかかげ、それぞれの項目のなかで主な意味価値として、「移行」「修正」「置換」などを挙げ発話例を列挙するという方法で記述がなされている。

それに対して、Mel'cuk, I., Picoche, J., Pottier, B.などは、changer の多義性を記述するために、意味価値を項目にかかげ、それに対応する表現形式を挙げ

ていくという方法を採用している。changer にいくつの基本的意味価値を認めるかに関しては意見の分かれるところである。Mel'cuk, I. は 5 つ, Picoche, J. は 4 つ, Pottier, B. は 2 つを認めている。

本稿では, changer の多義性そのものを問題にすることが目的ではないので, 以下の考察に必要最小限の前提事項としての changer の意味価値として, Pottier, B. が主張する二つのタイプを踏襲することにする。すなわち,

- I. 特徴・性質の修正：事行が関与するものの特徴・性質のひとつが修正される
(類義表現：modifier, mettre dans un autre état, transformer, etc.)
- II. 他のものとの交替：事行が関与するものが別ものと取って替わられる
(類義表現：remplacer, substituer, abandonner, etc.)

のいずれかである。

統辞項目別記述であれ, 意味価値項目別記述であれ, 一致していることは, この二つのタイプの意味価値と表現形式の間に一対一対応の関係が成立しているわけではなく, それぞれの意味価値はさまざまな表現形式のなかに現われるということである。この点については, Mel'cuk, I. が網羅的な記述を試みている。いくつか具体例をみてみよう。(1),(2),(3)はタイプI.の, (4),(5),(6)はタイプII.の意味の発話である。

- (1) Cette décision réaliste **a** nettement **changé** l'histoire de la famille.
(in Mel'cuk, I., p. 176)
- (2) Je vois que quelque chose **a changé** dans tes habitudes. (in Mel'cuk, I., p. 177)
- (3) ... événement de moindre importance : le tourisme **change** de forme et s'accroît. (Rousseau, P., *Histoire des transports*, 1961, p. 507, in Frantext)
- (4) On **change** alors le linge, les draps, les vêtements, les gants, qui sont lavés ou désinfectés. (*Encyclopédie Médicale Quillet*, 1965, p. 312, in Frantext)

- (5) Depuis hier, les livres sur ces deux rayons **ont changé**. (*in* Mel'cuk, I., p. 179)
- (6) Arrête donc, on ne **change** pas de mari tous les deux mois! (*in* Mel'cuk, I., p. 185)

統辞的構造を表す伝統的な用語を用いると、意味タイプ I. が、(1): 直接目的語をとる他動詞構文; (2): 自動詞構文; (3): **de** を伴う間接目的語をとる他動詞構文の形、で表されていると言える。同様に、意味タイプ II. も(4)-(6)が(1)-(3)と同じ構造で表されている。

2. 考察対象

冒頭で述べたように、本稿で取り上げたいのは、事行の働きかけの対象が直接名詞グループで表されている場合と、**de** + 名詞の形式で表されている場合である。以下、前者を<N1 V N2>、後者を<N1 V de N2>で示すことにする。上でも例を挙げたが、二つの意味タイプと構文特徴の違いを整理しながらいくつかの発話例⁽¹⁾を見てみよう。

2. 1. 意味タイプ I. 特徴・性質の修正

まず、**changer** が何らかの修正や変動などを意味する場合の例を見てみよう。(7)では死亡に対する出生数過剰が人口分布の概要の修正を引き起こすのであり、(8)は人が書く方向を変更したことを表しているが、N1 が N2 に修正・変動を引き起こしているのである。

<N1 V N2>

- (7) Chaque année, un excédent de 200 000 naissances sur les décès **change** le profil démographique de la population et pose à la nation des problèmes qu'elle ne connaissait plus depuis un siècle. (*Encyclopédie Education France*, 1960, p. 33, *in* Frantext.)

- (8) Il arrivait même que l'on **changeât** le sens de l'écriture en passant d'une ligne à l'autre boustrophédon. (*L'Histoire et ses méthodes*, 1961, p. 534, *in* Frantext)

次は N2 が *de* に伴われている例であるが, (3)では観光の形態・様相が変化し, (9)では貨幣の価値が変化するということを表す。

<N1 V de N2>

- (3) ... événement de moindre importance : le tourisme **change** de forme et s'accroît. (Rousseau, P., *Histoire des transports*, 1961, p. 507, *in* Frantext)
- (9) On peut alors remplacer “les prix courants”, ceux qui ont cours telle ou telle année et qui sont exprimés en une monnaie qui **change** de valeur d'une année à l'autre, par des “prix courants” pondérés ou rectifiés à partir d'une année de référence; ... (Lesourd-Gérard, *Hist. Econom.*, 19 et 20e S.t.1, 1968, p. 89, *in* Frantext)

(7)(8)とは異なり, *de* を介した表現形式では, 修正・変動を引き起こしているのが N1 というより, N1 に属する特徴ともいえるような N2 が修正・変動を被ることを表す。

2. 2. 意味タイプ II. 他のものとの交替

ここでは *changer* が交替・置換を意味する場合を見てみよう。(4)では, 行為主体 *on* の指示対象が衣類などを別の衣類などと取り替えること, (10)では, 行為主体 *tu* の指示対象は主節の三人称単数代名詞の指示対象をつなぎ留めているものを別のものと取り替えることを意味する。

<N1 V N2>

- (4) On **change** alors le linge, les draps, les vêtements, les gants, qui sont lavés ou désinfectés. (*Encyclopédie Médicale Quillet*, 1965, p. 312, *in* Frantext)

- (10) Moi, je vais l'immobiliser pendant que tu **changeras** l'attache.
(Moinet, P., *Le sable vif*, 1963, p. 141, in Frantext)

次の(6)では *elle* の指示対象がパートナーを別人と交換することを, (11)では生徒たちが居住地を換えることを意味する.

<N1 V de N2>

- (6) -- d'ailleurs, elle n'était jamais deux fois avec le même, elle allait avec trois trimards et **changeait** de partenaire d'une saison à l'autre... (Berger, Y., *Le sud*, 1962, p. 115, in Frangext)
- (11) Elle réserve dans chaque établissement un certain nombre de places à l'intention des élèves qui subissent l'examen probatoire à la session exceptionnelle et des élèves qui **changent** de résidence. (*Encyclopédie Education France*, 1960, p. 135, in Frantext)

これらの例についても 2. 1. の場合と同様のことが確認できる. すなわち, (4)では, N1 が N2 の交換を実行するが, N1 と N2 とが関連したものであることはこれだけの文脈では断定できないし, (10)でも同様である. ところが, (6)や(11)では, 行為主体のパートナーなり居住地を別人ないし別の居住地と交換する, つまりに N1 に属する N2 の交換ということが表わされている.

3. 問題点と発話例の検討

3. 1. 問題点

2. で見た N1 と N2 の (無) 関連性については, 辞書やさまざまな論考で既に指摘されていることである. 例えば, *de* を介した表現については「変化が主語と目的語の両方に影響する」という記述が *Trésor de la langue française* (p. 504) にある. また, Pottier, B. は次の例を挙げ, «il」と«disque»の関係に(12)では *association* が, (13)では *dissociation* があると述べている (Pottier : 1987, p. 154).

(12) Il **a changé** de disque. (*ibid.*)

(13) Il **a changé** le disque. (*ibid.*)

<N1 V de N2>構文の方では、N2 の名詞が限定辞を伴わないことからわかるように、N2 の名詞としてのステイタスは N1 と同様の自律性を持ったものであるとはとらえにくい。また、changer には次の(14)のように<N1 V N2 de N3>という構文も可能だが、この場合、N3 は N2 と一種の所属関係にあるものを示すので、この N3 も<N1 V de N2>の N2 と同様のステイタスの名詞と言える。

(14) Je veux **changer** André d'école : il ne se sent pas bien au Lycée Henri IV. (*in Mel'cuk, I., p. 183*)

それならば、無限定辞の N2 (N3 をとる場合は N3) はどのようなステイタスの名詞なのであろうか、また N1 と N2 との関連性とはどのようなタイプの関連性なのだろうか、そしてその関連性は所有形容詞を用いて表すことができないのだろうか、などの疑問が浮かぶ。この点に関して、発話例に即して見ていこう。

3. 2. N2 の名詞としてのステイタス

Picoche, J. は、<N1 V de N2>構文における N2 は、全ての限定を、つまり全く名詞としてのステイタスを失っている(“perdre toute pré- ou post-détermination, c'est-à-dire, en somme, son statut de substantif” (Picoche : 1986, p. 154)と言う。それに対して Mel'cuk, I. は、 postdétermination は可能なだからその場合に関して Picoche, J. の主張は真でないと述べ(Mel'cuk : 1992, pp. 214-215)、次のような例を挙げている。

(15) Jean **a changé** d'adresse personnelle, mais son adresse au travail reste la même. (*ibid.*, p. 215)

(16) Jean **a changé** d'opinions politiques, mais pas du tout de convictions morales. (*ibid.*)

しかし、この場合の限定も N2 が意味するものの別種を表す程度の区別

distincteurs-identificateurs を与える程度であり、他の修飾は除外されるとも指摘している。また、与格代名詞と共に身体部位に関わる表現に登場する場合との類似性についても述べているが、結局、N2 のステイタスがどのようなものであるかを Mel'cuk, I. は明示していない。

実際、コーパスの用例を観察したところでは、<N1 V N2>において、N2 はほとんどが定冠詞に伴われた名詞で、その自律性は高く(17)のように関係節を含むような修飾も受ける場合がある。また、N2 が定冠詞に伴われないときも、(18)のような後続修飾語によって限定を受けている名詞・不定代名詞が登場する。

(17) Pour le moment, ces progrès ne **changeaient** pas les destinées de l'Europe comme les découvertes des XV^e et XVI^e siècles qui lui avaient valu un empire d'outre-mer dont la fragmentation congénitale refléta les divisions de ses maîtres. (Lefebvre, G., *La révolution française*, 1963, pp. 5-6, in Frantext)

(18) Le XX^e siècle a **changé** quelques-unes des conditions fondamentales de la technique et de l'économie. (Perroux, F., *L'Economie du XX siècle*, 1964, p. 368, in Frantext)

実際、<N1 V de N2>において N2 が修飾語を伴っている例はあるが、次の(19)や(20)程度である。

(19) Les activités de tout ordre visées aux articles 2 et 3 du décret ne **changent** pas d'administration de rattachement. (Jocard, L.-M., *Tourisme et action de l'Etat*, 1966, p. 28, in Frantext)

(20) Il en est ainsi lorsque l'on **change** de système de numération en écrivant Mcccxiii au lieu de 1313. (Warusfel, A., *Les mathématiques modernes*, 1969, p. 16, in Frantext)

これらの例で N2 を限定している de に伴われた無限定名詞は、professeur de français, cours d'histoire などのように形容詞的な働きをしているので、名詞としてのステイタスを失っていると言ってよいであろう。しかし、N2 はこれらと

同様に名詞としてのステイタスを失っているものとみなすことはできない。N2 が *de* に伴われた名詞で限定を受けて表しているものは、N2 が意味するものの集合のなかのある部分集合である。また、Mel'cuk, I. が挙げている例(16)においては N2 が複数形である。このような発話も珍しくはなく、次の例もそれに準ずる限定を受けている発話である。

- (21) Le graphite, soumis à l'action d'un flux de neutrons intense, **change** de propriétés mécaniques et de dimensions; (Goldschmidt, B, *L'aventure atomique*, 1962, pp. 208-298, in Frantext)

この例での N2 は、*propriété* という集合のなかの *mécanique* という性質をそなえた複数の要素から成る部分集合であることを意味する。もう一つの N2 である *dimension* と並んで数えるものとして意識されているということである。

N2 の名詞としてのステイタスの有無を判別する基準としては、N2 が限定語を伴うか否かよりも、発話に読み取れる N2 の意味の現働化レベルの方が適切である。すなわち、N2 の名詞としてのステイタスは、限定語を伴っているかどうかにかかわらず、数の概念の付与がなされる程度に自律した指示対象を表す名詞と言えよう。

<N1 V de N2>での N1 と N2 の関連性について検討することも、N2 の名詞としてのステイタスを把握するための根拠になるであろう。もう一度(6)の例をみてみよう。

- (6) Arrête donc, on ne **change** pas de mari tous les deux mois! (in Mel'cuk, I., p. 185)

この例において N1 は *on* であるから、その指示対象は不定の人という情報しかもたらさない。ところが、これだけの文脈しかなくてもここでの *on* の指示対象は既婚女性で、*mari* はその女性の配偶者を表すことが読み取れる。また、(20)の N1 も *on* であるが、この発話の N1 と N2 は、行為主体が人でその人が用いる記数法体系という抽象的概念を表す。これらの N1 と N2 の関係は、言語的情報だけから理解できるものではなく、百科事典的知識に頼りながら演繹すること

によって割り出すことができるタイプの関係である。したがって、各発話の文脈を考慮に入れるという条件のもとで、名詞 N の本来の意味から現実世界の状況に対応している特定の事例を表すのが N2 と判断できる。これも名詞としての自律性を把握するための手がかりとなろう。

ただし、意味タイプ II. を表す <N1 V de N2> 構文では、changer d'avis, changer de camp, changer de main, changer de rôle, etc. などの頻度の高い慣用的な表現が多く見られる。そして、N1 には animé を表す名詞が用いられることが多い。また、意味タイプ I. を表す <N1 V de N2> 構文での N2 には、aspect, caractere, couleur, état, face, forme, nature, etc. などが多く用いられるという傾向がある。この傾向も、changer の意味と N2 のステイタス、あるいは N1 と N2 との関係性を明らかにするための切り口となろう。

3. 3. <N1 V N2> 構文における所有形容詞の使用

次に、N1 と N2 の関係が所有形容詞によって明示されている発話例を意味タイプごとに見て、<N1 V de N2> 構文の場合のそれとを比べてみよう。

3. 3. 1. 意味タイプ I. 特徴・性質の修正

- (22) Elle innove, c'est-à-dire **change ses** coefficients de production.
(Perroux, F., *L'Economie du XX siècle*, 1964, p. 197, in Frantext)
- (23) La grande firme ne **changeant pas ses** méthodes de production
(opérant sur les mêmes courbes de coûts), elle vend davantage à un
prix (de maximisation) plus élevé. (*ibid.*, p. 198, in Frantext)

この二つの発話の出典は同じであり、その内容からも(22)の Elle、つまり事行の行為主体は La grande firme であると推測できる。(22)の内容は大企業の生産率の、(23)ではその生産方法の変化ということである。次の(24)は<N1 V de N2> 構文のものであるが、最初の N2 が(23)のそれと同じ語である。

- (24) ... et s'il impliquait à long terme que la diplomatie, pour satisfaire
aux exigences de la volonté populaire, **changeât de** méthodes et

presque de nature, dans l'immédiat, la timidité des systèmes représentatifs retirait à cette novation à peu près toute valeur pratique.
(Chazelle, J., *La diplomatie*, 1962, p. 24, in Frantext)

構文の違いにもかかわらず, N1 と N2 の関係は, N1 が採用している方法としての N2 ということを表し, 大差は無いようである。

次も<N1 V N2>構文の N2 が所有形容詞の限定を受けている例である。

- (25) Les routes du pays, dans la moitié nord surtout, en ont quelque peu **changé** d'aspect, d'autant plus que les camions ont bien souvent remplacé le charroi à chevaux ou à mules, avec leur pavoisement de harnais et de panaches, et le gai carillon de leurs campanelles.
(T'Serstevens, S.A., *L'itinéraire espagnol*, 1963, p. 9, in Frantext)

N2 は N1 の外見を表すが, このタイプの発話例はあまり多くないようである。

ここに挙げた例から構文の違いに読み取れる N1 と N2 の関係について強いてコメントするならば, <N1 V de N2>構文に読み取れる N1 と N2 の関係のほうがより一般論に近いレベルであると言えるかもしれない。

3. 3. 2. 意味タイプ II. 他のものとの交替

この意味タイプの<N1 V N2>構文で, N2 が所有形容詞の限定を受けているものは, 意味タイプ I. の場合より少ない例しか収集できていない。まず, その構文の例を見てみよう。

- (26) ils révoquent, ils **changent** leurs mandataires, les législateurs et les ministres. (Textes Hist. Epoque Contemp. 2, 1965, p. 92, in Frantext)

この例の行為主体 N1 が交替させる N2 は, N1 が承認した彼らの代表者である。この意味タイプの<N1 V de N2>構文で, 発話内容の似た例は次である。

- (27) Si, au secrétariat général, Benoît Frachon et Léon Jouhaux sont à égalité, dès ce moment le pouvoir **a changé de** mains. (Reynaud, J.-D., *Les syndicats en France*, 1963, p. 91, in Frantext)

(26)で所有形容詞に限定を受けているN2も(27)でのそれも、権力の担い手という意味において類似しているが、(26)ではN2のあとにN2の具体的内容を表す定冠詞の限定を受けた表現が続いている点が興味深い。

次の例は、接続法の活用をとる従属節中に所有形容詞に伴われたN2が登場する<N1 V N2>構文の発話である。

(27) --Non, je ne veux pas que vous **changiez vos** projets, pour moi.

(Droit, M., *Le retour*, 1964, p. 181, in Frantext)

「あなたが計画を変更すること」という内容は<N1 V de N2>で充分表せる内容ではないかと考えられるが、所有形容詞が用いられている。

4. おわりに

以上、研究の途中過程で気付いた点を述べてきたわけだが、現段階での疑問をまとめると次のようになる。

changer の事行主体とその対象に何らかの関係がある場合は、<N1 V adj. possessif + N2>と<N1 V de N2>という二通りの表現手段がある。3. 3. でも述べたが、<N1 V adj. possessif + N2>の例はあまり多くはない。しかし、この二つの表現手段が競合関係にあるとすれば、何らかの使い分けの基準があると推測できる。また、それを解明することによって、<N1 V de N2>構文におけるN2の名詞のステイタス、およびそれとN1とN2の関係との関わりなども明らかになるであろう。より多く例を収集し、インフォーマント調査なども行いながら分析・検討をすすめていくのが今後の課題である。

注

(1) 発話例の収集には、Frantextを利用した。検索時(1999年8月)に登録されていた1950以降の415作品を部分コーパスとし、changerの活用形が登場する例を検索した。

全部で 2532 例抽出できたが、目下、それらを検討中である。尚、例の出典の記載のなかの省略記号などは、Frantext のものである。また、例中の太字・下線は筆者によるものである。

参考文献

- Abraham, M. (1994): *Analyse sémantico-cognitive des verbes de mouvement et d'activité : Contribution méthodologique à la constitution d'un dictionnaire informatif des verbes*, Thèse de doctorat, EHESS, Paris.
- Charolles, M. (1996): 'Reprise pronominale et prédications transformatrices: L'interprétation de la référence pronominale à la suite du verbe "changer"', in *Cahiers Chronos*, No.1, pp. 1-21.
- Le Goffic, P. (1993): *Grammaire de la phrase française*, Hachette.
- Mel'cuk, I. (1992): 'Changer et changement en français contemporain (étude sémantico-lexicographique)', in *Bulltin de la Société de Linguistique de Paris*, Tome 97, fas. 1, pp. 161-223.
- Picoche, J. (1986): *Structures sémantiques du lexique français*, Paris Nathan.
- Pottier, B. (1987): *Théorie et analyse en linguistique*, Hachette.
- Trésor de la langue française : Dictionnaire de la langue du XIX^e et du XX^e siècle*, Paris, Klincksieck, vol. 5.